CSRと国連グローバル・コンパクト

有馬利男

国連グローバル・コンパクト（UNG C）は、人権、労働、環境、腐敗防止の4大原則を掲げた国連と民間主体の活動である。今年で発足10年が経った世界の約140カ国から約870を超える企業と組織が参加し、日本も130近くが登録している。

UNGC本部は、「B-E-A-N」と「本部事務局（GC O）」で構成され、両者共に、国連事務総長室に設置されている。B-E-A-Nは、企業から10名、日本、韓国、中国、インドから各1名が指名されており、チェアマンは事務総長、本部事務局には約30名のスタッフがいる。この11月、日本企業からも1名、インターネットに「GC J-N」を編成、08年4月に経営者主導の組織編成に改めた。

プロジェクトの発表、CSRの共有と事業の統合、人材の育成を推進していることである。10周年を記念した今年2月のリーダーズサミットではその活動を評価されて表彰を受けた。

創設から10年を経たこの国連グローバル・コンパクトを提唱したのは、当時の国連事務総長、コッィ・アナンさんである。
1987年の国連ブリストル宣言における「企業の社会的責任（CSR）」の議論が表舞台に登場した。10年後の2000年にUNGCから「新しいビジネスチャレンジ」としての提言が発表され、企業社会全体が地球環境や社会を守ることになる。なお、この時代になると、ソーシャル・インベストメントはソーシャル・インベストメントと拡大し、CSR経営の重要性がまた再認識されるなど、社会が変化する中で、企業は社会に貢献していくことが求められる。

**取り組みのポイント**

1. インナーティニューション
2. バリューチェーン
3. ソーシャル・インベストメント

**参考文献**

1. 信州大学経済学部
2. 近代経済学会
3. 日本経済学会

**注**

本文の内容は概要であり、詳細については詳細を参照してください。